

テモテの手紙第一 1 章 5 節

「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」

ローマ人への手紙 12 章 2 節

「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、…心の一新によって自分を変えなさい。」

皆さん、おはようございます。今日皆さんとお会いできてうれしいです。私のことをご存知ない方もおられると思うので、簡単に自己紹介します。私はブラッド・ハウディシエルです。この OIC の教会家族の一員になってもうずいぶん長くなります。この 2 年半ほど、私は時折説教をさせていただいています。アリストア牧師が辞任された今、新牧師が就任されるまでの間何度か説教させていただきます。

ご存知のとおり、最近是我的好きな聖書箇所や聖書の教えに関するシリーズ説教をしています。2 ヶ月前には、コロサイ 3 : 16 から語り、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、」という冒頭部分をメッセージのタイトルとしました。その際、聖書に親しみ、みことばに心と思いを変えていただくことを皆さんにお勧めしました。自分の思考に神のみことばを取り入れる方法をいくつかご紹介しました。けれども、他にも皆さんにお分かちしたいことがありました。私自身が聖書を読んできた中で、幾度も出くわして、とくに私の歩みを助けてくれた聖書箇所を皆さんに紹介したかったのです。2 か月前、聖書を読んだりみことばを暗唱したりするのは、そのこと自体が目的ではないとお話しました。聖書知識や神学的知識を蓄積するためだけに通読や聖句暗唱をするではありません。私たちの中にみことばを取り入れるおもな目的は、心と思いを変えることです。ローマ 12 : 2 は「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、…心の一新によって自分を変えなさい。」と語ります。

今日のメッセージでは、考え方やふるまいを変えなければならないと示してくれた、とくに心に残ったみことばの具体例を挙げます。それらのみことばに励まされる必要が私にはありました。今日ここにいる皆さんの中にも、同じように励ましや促しが必要な人もいるでしょう。このメッセージを準備していたとき、お伝えしたいことがたくさんあることに気づきました。それで、このメッセージは 2 回に分けてお話しします。第一部は今日で、2 週間後の 3 月 22 日に第二部をお話しします。

2 回のメッセージのタイトルとテーマは、テモテ第一 1 : 5 のみことばからの引用です。「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」

キリスト教の命令（または教え）の目標は、聖書知識をつけることではありません。神学体系を学ぶことでもありません。もちろん、正しい教理をしっかりと理解することは大切です。けれども、キリスト教の教えの目標は、神と人を愛する弟子の形成です。テモテ第一 1 : 5 が語るとおり、B) きよい心と、C) 正しい良心と、D) 偽りのない信仰とから出て来る、A) 愛、を持つ弟子です。（こ

のA,B,C,Dが2回にわたるメッセージの概要となります。)

ロサンゼルス¹の大学に進学したとき、私はクリスチャンのクラブに入りました。そこで、いくつかの素晴らしい福音派教会を紹介してもらいました。ジョン・マッカーサー師が牧師だった教会もそのひとつです。そこで初めて、講解説教に出会いました。講解説教とは、聖書の全書を一節ずつ学ぶ説教です。それらの教会では、説教でメモを取るためのプリントが週報に挟まれていることがよくありました。私はそれをしっかり活用して、教えをじゅうぶんに吸収し、説教で教わったことをメモしました。

説教中にメモを取るほど熱心なのは素晴らしいことです。けれども、その目的は説教ノートの収集ではありません。むしろ、その言葉を日常生活で実践することです。つまり、それらの言葉に変えられることです。このテーマについて、皆さんにお分かちしたいのは、20世紀の著名な説教者のひとり、J・バーノン・マッギー博士のコメントです。彼は、1950～1970年頃、ロサンゼルスで名の知れたオープンドア教会の牧師でした。牧師職を退いてからは、スルーザバイブルラジオという人気のラジオ番組を始めました。この番組は、5年間かけて聖書一冊の注解をするというものでした。1980年代には私もよくこの番組を聴きました。

オープンドア教会は、20世紀初頭の根本主義運動の形成期に創立されました。根本主義運動は、アメリカの教会における近代主義に対抗するかたちで始まりました。近代主義は今では自由主義と呼ばれています。近代主義は、聖書の無誤謬性^{むごびゅうせい}（聖書に誤りがないこと）、キリストの処女降誕、キリストのからだの復活などといった根本的教理を否定します。主流教派の教会が自由主義に傾倒する中、多くの教会が根本主義の教理を信奉しました。

しかし、J・バーノン・マッギー博士は自身の教会や他の教会の様子に違和感を覚えていました。ある日、彼の番組を聴いていると、驚くような内容が語られていました。博士は長年忠実に福音を告げ知らせてきて、根本主義や福音主義を名乗る教会の何かが間違っていると気づいたと言いました。私はそれほど悲観的な意見ではありませんでしたが、博士ほど幅広い経験の持ち主ではなかったからかもしれません。ここで、できるだけ忠実に博士の言葉を再現してお伝えします。博士の言葉そのままではありませんが、次のような内容のことを話しておられました。

「私たち根本主義者には正しい教理があります。…教会には人がたくさん集まり、立派な説教者もいます。…人々は説教を聞いてノートにメモを取ります。けれども、近代主義者を納得させられていません。私たちには弱点があります。そして、その弱点を私はついに突き止めました。それは、あまりに多くの根本主義の信徒たちがモラルのない生活を送っていることです。彼らは世俗的なままで、私たちの教えを実践しません。生き方を見ても、ノンクリスチャンと区別がつきません。不敬虔な習慣を続ける人がたくさんいます。税金をごまかしたり、不倫したり、人にうそをついたり、暴言を吐いたり…。モラルが欠如しているのです。クリスチャンの従うべき基準を私たちは教えてきましたが、その基準に沿わない生活をしている信徒が多すぎます。」

マッギー博士の言葉がぐさりと私の心に刺さりました。私自身、すでに幾分かはそのことを感じていました。大学でよいクリスチャンのクラブに属し、よい福音派の教会に通っていましたが、教会に通っている人の多くは、ただの習慣として、友だちに会うために行っているだけだと気づきました。信仰的に成長したいとはそれほど思っていないようでした。クリスチャンだと言っても多くの人はモラルに欠けた生活を送っているという博士の見解は、私にとって非常に説得力がありました。それで、博士が嘆いているような生ぬるい名ばかりのクリスチャンにはならないでおこうと決心しました。

神のみことばを読み、良質な信仰書を読み、福音主義の説教者の説教を聞きましょう。そして、読んだり聞いたりした内容から課題を与えられるかもしれないという姿勢を常に持つことが大切です。神の望まれるような生き方をするために、自分の生き方で何か変える必要がないかと自己吟味する心構えを常にしておきましょう。

「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」

A. 愛

ヨハネ第一 4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

ヨハネ 13 : 34-35 で、イエスは弟子たちに次のようにおっしゃいました。「13:34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合ひなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合ひなさい。 13:35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

このようにして人々はキリストの弟子を認識します。彼らが互いに愛し合うことです。そして、キリストが愛してくださったように、互いに愛し合わなくてはなりません。それは、犠牲を払って仕える姿勢です。

マタイ 22:35-40

22:35 そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。

22:36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」

22:37 そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

22:38 これがたいせつな第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

22:40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

「律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」「律法と預言者」とは、モーセの律法と預言書のことです。つまり、イエスの時代の人々に与えられた神のみことばの啓示である旧約聖書を指します。神の民に対する第一の戒めは、心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、神を愛することです。そして、隣人を愛することもしかりです。啓示された聖書全体が、この二つの戒めにかかっているのです。

とは言え、いろんなことに気を取られて、なかなか心から神と隣人を愛せないこともあります。私たちの気をそらすのは、良い物事の場合もあります。

コリント第一 13:1-3 のパウロの言葉は印象的です。

13:1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。

13:2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。

13:3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かされるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

異言や預言といった目立つ賜物を持っていても、人に対する愛がないなら何の役にも立ちません。知識や信仰に長けていても、人に対する愛がなければ、何の益にもなりません。3 節、人のために犠牲を払っても、その人たちに対する愛がないなら、何の益にもなりません。役に立たないのです。賜物を使ったり、知識があつたり、人のために犠牲を払ったりするよりも大切なのは、兄弟姉妹を愛することです。人と私たちの創造主とに対する愛がなければ、何もかも無益です。

愛は素晴らしい美德だと聖書は語ります。ある偉大な説教者は「この地上に私たちがいるおもな目的は、愛し方を学ぶこと」だと言いました。愛し方を学ぶこと。そのとおりだと思います。

コリント第一 13 章の続きを読みましょう。8-10 節です。

13:8 愛は決して絶えることがありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。

13:9 というのは、私たちの知っているところは一部分であり、預言することも一部分だからです。

13:10 完全なものが現れたら、不完全なものはすたれます。

預言も異言も知識も、一時は役に立ちますが、私たちが地上にいる短い年月の間に限られています。一方、絶えることのないのが愛です。古代の教父のひとり、次のようなことを語っています。「次の世には、この地上の人生で得た徳以外、何も持っていけない。」「徳」とは、地上での人生で形成した大切な人格的特徴を指していると思います。人格的特徴は形のないものですが、これが天国に持っていけるものなのです。

コリント第一 13:13 は、3 つの徳について語ります。そして、中でも一番大切な徳を挙げます。

「13:13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

今日のメッセージの概要に戻りましょう。

「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」

B. きよい心

山上の説教でイエスは次のように語っておられます。

マタイ 5:20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。

パリサイ人は、当時のユダヤ教の中で、もっとも厳格できよい人たちでした。その人たち以上の義を私たちに求められるとは、どういうことでしょうか。けれども、パリサイ人の義は、外面的なきよさでした。数々の厳格な規則に従って行動を規制し、正しく見えるようにしたのです。しかし、内面的には腐敗していました。

マタイ 23:27-28 で、イエスはパリサイ人たちに語りかけておられます。

23:27 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。

23:28 そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。

25-26 節で、イエスはこうおっしゃいました。

23:25 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。

23:26 目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。

「まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。」

何よりも第一に、私たちは内側をきよめなくてはなりません。心をきよく保ちましょう。そうすれば、外側、つまり人に見える行いもきよくなります。それが、私たちの義が律法学者やパリサイ人の義にまさるということです。

山上の説教で、イエスは人の心がどれほど腐敗しているか例を挙げておられます。皆さんにお尋ねします。十戒の第六の戒めを破ったことはありますか。第六の戒めは「殺してはならない。」です。本当に破ったことはありますか。

マタイ 5:21-22

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言わ

れたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

相手が犯罪を犯した等の正当な理由がないのに、兄弟や姉妹に腹を立てることが、殺人と等しいのです。これは心の問題です。腹を立てて誰かをののしる行為は、心に憎しみがあることを表します。心に憎しみがあると、殺意が生まれます。正当な理由なく怒ることは、殺人を犯したかのように神の律法に違反したことになります。地獄行きが決定するほど有罪なのです。

怒りについて少し話したいと思います。これは、私も含めほとんどの人が向き合わなくてはならなかった問題です。数週間前、次の説教でこのテーマについて話すと友人に言うと、その友人は、「ブラッドも怒ることがあるなんて意外だな」と言いました。そんなふうに言ってもらえてうれしいですが、人にそういうふうに見られるのはおそらく、これまでに何度も何度も、怒りに関する特定の聖書箇所を示されたからでしょう。それで、怒りを爆発させたり憎んだりしないようにする努力をしてきました。

そうやって示された聖書箇所のいくつかをご紹介します。

エペソ 4 : 31-32

4:31 無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。

4:32 お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。

ヨハネ第一 **3:15** 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。

(これは痛烈なみことばです。兄弟を憎んだら人殺しで、永遠のいのちがない証拠だというのですから。)

詩篇 **37:8** 怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。

エペソ 4 : 26-27

4:26 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。

4:27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。

怒っても罪を犯さないことは可能なようです。誰かの過ちや犯罪行為に対してなら、怒ることは罪ではありません。しかし、ほとんどの場合、自分勝手な理由で腹を立てます。何かが自分の思い通りにならないからです。腹が立ったら、**26**節をご覧ください。「日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。」腹立たしい気持ちを明日に持ち越してはいけません。すぐに対処して落ち着きま

しょう。5:27 もご覧ください。「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」怒ったままでいると、その怒りが増幅し、私たち自身を毒します。そうすると、クリスチャンとしての私たちの証を台無しにする機会を悪魔に与えてしまいます。さらには、他の人に悪影響を与える人物にされてしまいます。

以前、この教会の創立牧師ジャック・マーシャル師から、ある話を聞きました。ジャック師は長年かけてたくさんの牧師と知り合いましたが、牧師が召された後で、実はその牧師はひどく短気で怒りっぽかったと遺族から聞かされることがあるそうです。人前ではそんな素振りも見せませんが、家庭内ではそうで、妻や子どもたちが深く傷つけられたということです。ジャック師は、何度もそのような話を聞いたと言っておられました。その結果、子どもたちは信仰を離れたというケースもあります。悲しい結末です。

兄弟姉妹の皆さん、悪魔に機会を与えてはいけません。怒りに居場所を与えてはいけません。怒りが爆発した状態を明日まで持ち越さないでください。その日のうちに対処しましょう。

もう一度エペソ 4:31 を読みましょう。「無慈悲、憤り、…を、…みな捨て去りなさい。」みな捨て去るのです。次に 32 節です。「…神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」赦されたように赦すのです。

では、もうひとつの心の問題について話しましょう。皆さんは、第七の戒めを文字通りの意味では破ったことがないかもしれませんが、心の中で罪を犯したことはありませんか。

イエスはおっしゃいました。

マタイ 5:27-28

5:27 『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。

「情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」

これは、美しい女性の外見全体を見て素敵だと思うことではありません。この個所には、「情欲をいだいて女を見る」とあります。それは、その女性に対する性的な欲望を持って見るということです。これは、私たち男性のほとんどが対処しなければならないことです。私も十代 20 代のころは、この問題に向き合わなければなりませんでした。けれども、これを克服する方法はあります。

つづきをご覧ください。29 節でイエスはこう続けて語られます。「もし、右の目が、あなたをつまみかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。」なんと厳しい言葉でしょう。けれども、文字通り受け止めて、体の一部を切り取ったりしないでください。これは、その女性から目をそらし、その女性に肉欲を向けるのをやめなさい、という意味です。これを習慣づけることです。自分が性的な視線を

誰かに向けていると気づいたら、目をそらすことです。見ないようにしましょう。

昔、ある説教者から聞いた話を思い出します。彼は言いました。「ある男性が、自分の深刻な問題について相談に来ました。彼は、『先生、僕は女性を見るといろんな思いが浮かんでくるのです。』私は答えました、『ハレルヤ、君は人間だ。それは自然なことだよ。けれど、女性を一度見ることが問題ではないのだ。問題は、二度見することだよ。その女性をもう一度見て、故意に性的な欲望を掻き立てるようなことをしてはいけない。』」この話は、29 節を実践するのに役立ちました。女性に性的な眼差しを向け続けて、欲望を抱かないように助けてくれました。その人から目をそらし、見ないようにしましょう。

30 節に進みます。イエスは「もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。」とおっしゃいました。

この 30 節に登場する「右の手」について考えると、28 節の情欲を次の段階に進める人が思い浮かびます。まだ実際に姦淫には及んでいませんが、情欲をもっと満たしてくれるものに手を伸ばすことです。コンビニや書店でアダルト雑誌を立ち読みしたり、パソコンでアダルトサイトを見ようとマウスを操作したりする姿が思い浮かびます。イエスは、手を切って捨ててしまいなさい、とおっしゃいます。もちろん本当に腕を切り落とすわけではありません。そのような写真や動画に手を伸ばして見ることを拒絶するのです。情欲を満たすチャンスを逃すほうが、たましいを汚すよりよいからです。興奮を味わえなくても、長期的に見れば、自尊心を保つことができます。

何年も前、あるクリスチャンの友人に起こったこととお話しましょう。彼は妻と子どもたちと一緒に宣教地に派遣される準備をしていました。しかし、彼には秘めた罪がありました。ある晩、その罪を妻が見つけてしまいました。ネットのアダルトサイトを閲覧していたところを見られたのです。彼はアダルトサイトにはまっていました。宣教団体も辞めることとなり、派遣先に行くことはありませんでした。そのようなことにはまらないように気をつけてください。自分も妻も傷つけることになります。そして、奉仕の機会を失えば、それによって祝福を受けるはずだった人たちがっかりさせることになります。

コリント第一 10 : 12-13 は、私の好きな聖書箇所のひとつです。

10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

10:13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることにはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

常に気をつけていましょう。罪に陥る可能性は誰にでもあります。けれども、罪に陥る必要性はありません。13 節は、私たちが遭うどんな試練も大きすぎることはない、と教えます。それは、神がまことのお方だからです。神は私たちとともにおられ、「耐えられないほどの試練に合わせるこ

とはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」私はこの約束に何度もすがりました。そして、この約束が私を多くの問題から守ってくれました。誘惑から離れましょう。そうすることは難しいことではありません。

今日のメッセージをそろそろ締めくくりましょう。最後の勧めです。

コロサイ 3 : 8-10

3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。

3:9 互いに偽りを言ってはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、

3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。

私たちは、「古い人」を脱ぎ捨てなければなりません。それは、ノンクリスチャンとして生きていたときの昔の生き方です。そして、「新しい人」を着る必要があります。これは、クリスチャンとしての新しいアイデンティティーです。神の子ども、キリストの弟子という新しい身分をしっかりと自覚し、きよい心で愛するという神の基準に則って生きなくてはなりません。

「古い人」は脱ぎ捨てなければなりません。続いて、コロサイ 3 : 12 は語ります。

3:12 それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

私たちは、怒り、憤り、情欲、といった古い人を脱ぐ必要があります。

そして、新しい人を着なくてはなりません。それは、深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容です。そして、その一番上に着けるべきものが 14 節に記されています。

3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。一番上に身に着けるべきものは、愛です。

「新しい人」を身に着けたうえで、17 節は、外に出て人生を歩んでいくための指針を与えてくれます。

3:17 あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。

何をするにも、キリストの基準に従って行いましょう。